

# 2022 年秋学期 ウィニペグ大学 帰国生アンケート

**※注意※** ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

## 1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

morning class: イディオム、動画を見てそれについてディスカッション、listening class: 動画を見てメモをとる、それを元に内容の要約、Conversation & Pronunciation class: いくつかの条件を組み込んだ会話をペアでする

基本的にはディスカッションが多く話し合ったり自分の考えを述べる機会が多かった。課題やテストなども多かったがプレゼンが多かった。

午前の授業では英語の 4 技能すべてを学んだ。1 週間ごとにトピックが決まっており、それに関連した単語や知識を学ぶ。リスニングをしたり文法やライティングのスキルなども習う。毎週金曜日には成績に大きく関わる評価があり、その内容は、スピーチやプレゼンテーション、筆記テストなど、形式はさまざまであった。ペアやグループで何かをすることが多く、話す機会がとても多い。午後の授業は座って 1 人でノートに書き留めるようなことはほぼなく、グループ単位での会話やロールプレイなどを中心に授業が進められた。より日常生活に近いトピックを扱うため、リアクションや会話の際に使うフレーズなど実用的なことをたくさん学んだ。

私は、スピーキングとリスニングに力を入れるクラスで授業を受けていました。クラスでは、ディスカッションが多く、自分の意見を言い、相手の意見を聞くことが多かったです。ディスカッションとは言っても、真剣な雰囲気の中でのではなく、ペアで話し合うスタイルだったので気軽にリラックスしながら話し合えました。私のクラスでは、food, shopping, environment, world issues など様々なトピックについて学びました。身近なものから、社会的問題について学ぶことができましたし、他人の意見を聞くことで、自分とは違った意見を聞くことができました。

午前のクラスはグループディスカッションが毎日あり、自分の意見を積極的に発言する機会が多かった。午後のクラスでは、ペアワークが多く、ペアで協力して発音練習することが多かったです。

午前のクラスも午後のクラスも基本的には教科書にしたがって進んだ。約 20 人のクラスで、先生が当たると言うよりかは、自分から積極的に発言することが求められた。

ペアワークやグループワーク、プレゼンやスピーチ

私はアカデミックというライティングとリーディングに焦点を当てたクラスを受講していました。受講する前はディスカッションなどのアクティビティではなく黙々と読み書きに集中するクラスかと思っていましたが予想とは違い、話し合いやディベートなど多くのアクティビティも含むクラスでした。よって英語を話したり聞く機会は毎日十分にあり、それに加えて専門的な読んだり書いたりするスキルも身に付けることが出来た為、このクラスを受講して四技能がまんべんなく身に付けられ本当に為になったと感じています。また比較的小さなクラスであったので生徒同士や先生との距離も近く、気負いすることなく発言できる環境も良い点であったと思います。

レベル別クラスで行われ、人数はクラスによって異なる。パワーポイントなどを使って、文法、映像を使ってそれをもとにスピーキングなどが行われた。

授業は月曜日から金曜日までであり、木曜日までは午前と午後に授業が分かれていて金曜日は午前の授業で終わりました。午前の授業は語句や文法を学ぶことがメインでほかにも動画を見てそのお話に関する質問に答えてグループで話し合ったりしてましたが午前はディスカッションの授業は少なかったイメージでした。進め方はだいたいスライドが作ってありそれに沿って進めていく感じでした。午後の授業はスピーキングやリスニングがメインで話し合いなども多かったです。後半の方では発音も重視していて早口言葉や発音の確認などもありました。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

20人程度 午前クラス:1:9(韓国:日本)、午後クラス:2:2:6(スペイン系:韓国:日本)

クラスの人数は約24名ほどで21人が日本人だった。他のクラスでも見るのはほとんど日本人ばかり。

新型コロナウイルスの影響もあり、留学生全体の7割ほどが日本人だった。私のクラスも1人を除き全員が日本からの留学生だった。日本人の次に韓国人が多く、ほとんどが日本人と韓国人だった。そのほかにも南米やヨーロッパなどの国から留学生がきていた。午前のクラスは18人、午後は20人ほどで少なければ10人、多ければ25人ほどのクラスもあった。

クラスは全員で19人でした。日本人が9人、韓国人が8人、コロンビア人が1人、メキシコ人が1人でした。私のクラスは他のクラスに比べるとマルチナショナルなクラスでした。そのため、異文化についてたくさん知れました。授業中にも各国ではどう感じるのか、何が違うのかについて学びました。

対面授業のクラスメンバーは9人で、4人は日本人、1人は韓国人、もう1人は中国人、コートジボワール人、残りの2人はコロンビア人。

日本人は、私も含め8人他は、メキシコ1人、韓国2人、パナマ1人、エルサルバドル1人、エクアドル1人、計14人

クラスの人数は20人前後で午前クラスは半分くらいが日本人で残りは韓国人やチリ、ドミニカ共和国、ベトナムなど大人が多かった。午後クラスは2人が韓国人で残りは全員日本人だった

上記でも述べたように、クラス人数は20人以下という比較的少人数なクラスでした。他のクラスは8・9割が日本人という中、私のクラスは5割が日本人、あとは他国からの留学生や移民の方というクラス構成でした。また学生だけでなくお子さんがいる大人も多い、少し他のクラスとは違う形のクラスであったと思います。しかしそのお陰で本当に様々な視点の意見を聞く機会が多くとても有難い環境であったと思います。クラスメイトの出身国は韓国、スペイン、ウクライナ、ドミニカ共和国、エルサルバドル共和国、ベトナムなど本当に多岐にわたっていました。

クラスは25人ほどで、そのうち3人だけが韓国人、他はすべてに日本人だった。ほかにもコロンビアやメキシコ、コートジボワールからの生徒がいたが、留学生のほとんどは日本、韓国人だった。

午前のクラスではほとんどが日本人で25人くらい人数がいて3人が韓国人残りはすべて日本人でした。午後の授業では18人くらいいて3人韓国人、2人がドミニカ共和国1人がスペイン人、残りが日本人でした。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

ディスカッションが多い

授業は積極的に発言することが求められる授業だった。ディスカッションやディベート、プレゼンテーションも多く、英語を上達させるのにとってもよかった。資料はすべてオンラインで配布され、テストもほとんどがオンラインのシステム上で行われた。

授業中は、先生より学生が話すことが多かったです。先生はとても面白く、明るい方だったので質問しやすく、自分の意見を自由に言える雰囲気でした。スピーチやプレゼンの時でも、緊張感は少なく落ち着いてすることができました。

ただ授業を受けるだけでなく、グループディスカッション、スピーチ、グループのプレゼンテーションなど、アウトプットの授業が中心。

他の国の生徒が積極的に発言したり質問したりしていた。日本のクラスはとても消極的であると感じた。

外国人が多いクラスは沈黙の時間がなく先生の質問に対して間違っていたとしても自ら手を挙げることもなく発表したり、質問があるときは授業中にみんなの前で理解できるまで時間をとっていた。日本のクラスの雰囲気と比べてとても積極的でアウトプットの時間が多いと感じた。

クラスの雰囲気は大人が多かったこともあり、近すぎず遠すぎずといった程よい距離感で私にとっては心地よかったです。また学校が始まってすぐの頃は、日本人以外の学生の発言量に驚かされました。アクティビティの時間は勿論、先生が説明している時でさえも疑問を感じたらためらうことなく質問していましたし、オリエンテーションの時に授業中に疑問を感じたら遠くまで質問するようにと先生から言われていました。また、納得のいくまで意見を言ったり質問したりする姿にも刺激を受けました。日本の授業で学生が質問したり、納得がいくまで突き詰めたりする光景はあまり見ないのでとても新鮮で私も負けてられないと毎日鼓舞されていました。

基本的にだれが発言をしてもいい環境で、教師と生徒が対等な関係にあるように思えた。テストの成績や授業のやり方についても改善を求めることができたし、英語を話す機会が多く、日本のようにただ机に向かって書くだけの退屈な授業ではなかったので、自分の英語力の向上を肌で感じる事ができた。

午前の授業は最初の方はみんなすごく積極的でたくさん手を上げたりしていましたが後半になってくると皆慣れてきて積極性がなくなっていってました。午後のクラスはスピーキング重視だったのであてられて分を話すことが多かったです。手を挙げて発表するよりは先生にあてられることが多かったです。

#### 授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

タトゥー・LGBTQ

セクシャルマイノリティーなど倫理問題を多く取り上げていた。

午前の授業では難しいトピックをたくさん扱った。医療や法律などに関するトピックを英語で学んで意見を述べることはとても難しく、知らない単語も多かった。しかし、英語力を高めながらそれに関連する知識を身につけることができたのでとても役立った。カナダの祝日や原住民について習ったこともとても印象に残っている。

Shopping のトピックの中で取り上げられた、fast fashion が1番印象に残っています。安く売られている服はすぐに捨てられ、それが環境に影響を及ぼして、労働者に対しても問題を抱えているという内容でした。普段私は高い洋服は買わず、GU や ZARA などを買うことが多いですが、それらはfast fashion に含まれると知りました。このトピックを学んだ後から洋服に対する意識が変わり、きちんと考えて買い物し、長く着なければならぬと学びました。

動物園や動物実験に対して賛成か反対かグループプレゼンテーションをした際、自分の意見だけでなく、証拠となる写真や動画、グラフなどを出すことで正当な理由に繋がった。

授業のメインではないのですが、大きなイベントや祝日の前に先生がそのイベントや祝日にはどういう意味があるのか等詳細を説明する時間をとってくれました。例えば感謝祭やブラックフライデー等です。言葉では聞いたことがありましたが日本にはない文化なので私もとても興味がありました。ここで驚いたのはカナダの感謝祭とアメリカの感謝祭は意味も日にちも違うという事です。カナダは農作物の収穫を祝う意味ですが、アメリカではネイティブアメリカンに感謝する意味合いがあるそうです。また時期も一か月程違います。同じ行事だと思っていた私にとっては新しく知る事でとても興味深かったです。毎回こういった時間はとても有意義なものでした。

LGBTQ,国籍による文化の違い。様々な国籍の人たちがいる環境の中でのそのような授業はまた雰囲気が変わって面白かった。

午前の授業で LGBTQ+ について学んだ時に、みんなで話し合ったりグループ分けをしたりしていました。一番驚いたことが LGBTQ+ にはいろいろな種類があり 50 個以上のカテゴリーがあり印象に残っています。日本では LGBTQ+ についてあまり知られていないし、学ぶこともあまりなく、またカナダでは LGBTQ+ の人が結構多くて自分が考えていた価値観とは勉強してから変わったなと思いました。

#### 授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

努力していた事は授業の中でわからなかったことを必ず聞いてわからない事を作らないこと。

授業はすべて英語で進められるため、集中して逃さないようにすることを意識した。自分の英語が上手いかどうかは置いて、たくさん発言して積極的に授業に参加するよう努力した。復習や分からない単語をまとめることもとても役立つ。

授業中は毎日ディスカッションがあったので、英語脳への切り替えが重要だったので、それを意識していました。また、難しいトピックは自分の意見が全く出ないこともあり、大変困難でしたが、ちょっとした意見でもみんなは真摯に向き合ってくれてくれるので嬉しかったです。難しく考えず、思ったことを全部言うことを意識していました。先生の英語も聞き取りやすかったので、発音などを集中して聞いていました。

メモは極力日本語でとらない、分からないことがあったら友達や先生にすぐ聞く、同義語や知らない単語はすぐに調べるようにしていた。

積極的に発言すること、日本人以外のクラスメイトとペアワークを進んでする

ためらわず発表すること、プレゼンなどグループワークで違う国の学生ともコミュニケーションをしっかりとって協力すること、宿題や授業で新しく学んだことをしっかり復習すること

授業の内容を難しいと思う事はあまりありませんでした。その点で苦労する事はなかったのですが、自分の発言量の少なさにはとても悩まされていました。先述した通り、日本人以外の学生は自分の意見をしっかりと持っていて、クラスの中で発言する事に躊躇いは全く無いようでした。なぜそんなに

積極的にになれるのか彼らに尋ねた時に、高い学費を払って授業を受けているのだからしっかり勉強して自分のものにしなないと勿体ないしそれが当たり前、と言われました。その言葉に刺激を受けて私も最初の頃は一クラスにつき一回は当てられる前に発言しようと努力しました。それが毎日できるようになると自然と発言する事に対する躊躇いは消えていきました。

日本人だらけの環境でも、できるだけ日本人以外の人の隣尾に座ったり、わからないことや、思ったことは積極的に発言するようにしていた。

毎回授業の復讐をしていたことです。語句などの意味はすぐ忘れてしまうので帰ってから振り返りをしていました。また最初の方は授業が難しく、ついていくのが大変だったので予習もしていました。なので話し合いの時などに自分の意見を言える幅が増えたと思います。

## 2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。
0人	-
1人	韓国人、日本人

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
バス	0-15分	ホームステイ先
バス	15-30分	ホームステイ先
バス	30-45分	ホームステイ先

部屋に用意してあったものは何ですか。
ベッド、勉強机、椅子、クローゼット、ゴミ箱、ハンガー
ベッドやタンスや電気。
ベッド、机、椅子、タンス、クローゼット、全身鏡、タオル、ハンガー、スタンドライト、洗濯かご、ティッシュ
ベット、勉強机、イス、タンス、棚、衣装室、ドライヤー、タオル、バスタオル、洗剤、ハンガー
机、椅子、ベッド、ハンガー、ドライヤー、タオル、トイレトペーパー、ハンドソープなど。
ベッド、机、椅子、机上のランプ、棚、ドライヤー
ベッド、クローゼット、鏡、勉強机
大きな鏡、机、椅子、ベッド、ベッドサイドテーブル、タオル、ハンガー、シャンプーリンス、ボディークリーム、石鹸、ドライヤー、ボディシャンプー、ブラシ、入浴剤、消毒液、ウエットティッシュ等
デスク、イス、ベッド、タンス、ハンガーラック、暖房、照明

自分で用意したものは何ですか。
石鹸類、タオル類
自分が使うスキンケア用品やヘアセットのものなど。
シャンプー、リンス、ボディソープ、ドライヤー
シャンプー、ドライヤー、コテ
タオル、歯磨き粉、歯ブラシ、シャンプー、ボディソープ
服、薬など、自分が必要とするもの
日用品、1週間分の服

マスク、フェイスタオル一週間分、バスタオル二枚、コンタクト用品、スキンケア用品、スリッパ、歯ブラシ、歯磨き粉、タコ足配線、生理用品、ドライヤー、雨具、ブラシ、洗濯籠、洗濯用洗剤、下着用の洗濯ネット、袋類、ポケットティッシュ、シャンプーリンス、薬(鎮痛剤、常備薬など)、カミソリ等

ドライヤー

ドライヤー、タオル、シャンプー類

#### ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

ホストファミリーがキリスト教で日曜礼拝に行くこと、お祝いごとの時にキリスト教特有の唱えがあった

ホストファミリーは寝るのがとても早く、部屋も隣で防音もならなかったため、お風呂の時間や夜に何かする時に気を遣った。休日は一日中家にいたただ休むということはなく、基本的に趣味を楽しんだりどこかに出かけることが多かった。

みんなで、いただきますやご馳走様でしたをしないので、いつのタイミングで食べて、お皿を下げればいいのか少し分からなかったです。

洗濯が週に一回、冬が寒すぎること。

食事は日本に比べてとても簡素で何品かおかずが出ることはなくピザやホットドッグなど一品のみで同じようなメニューが多かったこと、湯船に入る習慣がなくシャワーのみでホストファミリーはシャワーも週に数回程度だったこと、洗濯は週に一回、靴を履くところと脱ぐところの区別がない事

日本に住んでいた時にイメージしていたホームステイは、ホストファミリーから“おもてなし”をされ、週末には一緒に出掛けたり旅行をしたりするいうものでした。しかし実際はお客様としておもてなしされるわけではなく“家族の一員”として日常生活を過ごす、というものでした。勿論ホストファミリーにも自信の生活スタイルがある為、日中出かけたり夜に出掛けることもあります。おもてなしのホームステイを想像していた私はギャップを感じ、孤独を感じることもありました。しかし時間が経つとここではお客様ではなく家族として扱われているのだという考えになり、逆に居心地が良く過ごせるようになりました。

#### ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

自分の時間をしっかり持つ

日本の常識は当たり前だと思わない。

分からないことや困ったこと、頼みたいことがあればすぐにホストファミリーに自分の口から伝える。ホストファミリーとのコミュニケーションは快適な留学生活を送る上で欠かせない。留学期間中は泊まらせてもらう身でありながら家族の一員でもあるため、それを自覚する。ネイティブと英語を話す機会、その国の家庭文化を体験する機会を大切にす。

思ったこと、言いたいことはホストファミリーに伝えることが大事だと思います。ホストファミリーはホストになることを嬉しく思っているので、どのような要望でも快く受け付けてくれます。

向こうでは、空気を読む文化がないため、自分の感情をできるだけ言葉で表す事が大切だと感じた。

ホストファミリーやルームメイトとのコミュニケーションをしっかりとること

疑問に思ったことやわからないことや嫌だと思ふことは遠慮することなく伝えたりコミュニケーションをとることが大事だと思った。

気を遣いすぎない事、何かを聞くことを躊躇わない事、気にしすぎない事は大切だと思います。私が感じた事は海外の人は日本人よりストレートに生きているという事です。嫌な事は嫌とハッキリ言ってくれますし、顔にも出ます。よってホストファミリーが言ったわけでもないのに気を遣いすぎて行動しても結局ホストファミリーは全く気にしていない事がほとんどでした。また、何か分からない時に聞く事を躊躇って自分なりにやってみて失敗するよりもどんどん質問していった方が仲良くなれますし、生活しやすかったです。また海外の人がたてる物音は基本的に大きいので怒っているのかも等と気にすることも無用だと思います。

必ずしも家族とずっと過ごせるわけではなく、私の場合は夕食以外、みんなそれぞれの部屋で過ごしていて、思うように時間が取れなかったりするので、話のネタになるような日本のお菓子や、映画を見れるようにパソコンなど。

ホストファミリーとたくさん話す、部屋にこもらない、ホストファミリーに気を使わずに、自分の意見をしっかりという

パソコンは 持参しましたか	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。
はい	ワイヤレスで可能
はい	LAN ケーブルで可能

携帯電話は 持参しましたか	利用方法
はい	日本から SIM カードを持参
はい	日本の携帯をそのまま持参

#### 大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。

##### 学校のアクティビティに参加

大学主催の Language Learning Partner プログラムに週に一回放課後に参加している学生も多かった。金曜日の午後にはアクティビティとして博物館や有名な観光地を訪れることもあった。日本語を学ぶ学生に日本語を教えてあげる機会もあった。

金曜日の午後には Friday activity といって現地の人と交流できたり、街についてしれたりする機会を得られる活動で、ほぼ毎週行ってました。

金曜日は午前中しか授業がなかったため、午後にフライデアクティビティという学校主催のアクティビティに参加していた。また、放課後は課題が多かったため、課題を終わらせていた。

日本人以外のクラスメイトと文化の違いを教えあった、地域のイベントに参加、ボランティアに参加

大学が主催しているイベント、カフェテリアで現地の学生と話す、現地できた友達と遊びに行く、行ったことないところを散策、ホストファミリーと出かけたりお手伝いをしたり一緒に時間を過ごす、勉強

毎週金曜日に大学主催のアクティビティがありました。内容はサッカーやバスケットボールといったスポーツから博物館やプラネタリウム、町観光など多岐にわたりました。定員があるものもあったり、金曜日なので予定が入っていることもありましたが基本的には新しい友達を作るチャンスなので参加するようにしていました。このアクティビティを通してできた友達も多いので参加してきて良かったと思います。また、ウィニペグの知らなかった場所や歴史、観光スポットなどその土地についての新しい事を知る機会にもなっていました。

毎週金曜日に行われていた留学生向けのアクティビティでいろいろな美術館やミュージアムに行った。

ラングエッジパートナープログラムがあり、現地の大学生が留学生と1時間くらい zoom で話してくれるもので2週に1回あり参加していました。また大学主催ではないのですが日本語を現地に住んでる人たちに教える会があって英語と日本語を使って教えたりしていました。

#### 学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など

##### ジム、韓国料理店

カフェテリアをよく使った。

放課後は学校近辺のカフェでテイクアウトをして、学校で友達と課題をしたり映画を見て話をするが多かった。学校の前にはカフェなどの飲食店も多いため、とても便利である。

放課後はカフェに行くことが多かったです。また、週1でジムに行っていました。無料でした。

学校のクラスルーム、学校近くのカフェ、ティムホートン。

クラスルームでクラスメイトと話したり映画を見たりした近くのショッピングセンターに行った(polo park)

学内のカフェ、ティムホートン、フォーカス、ポーターズプレイス

大学からバスで約20分ほどの場所に位置するポロパークというショッピングモールには比較的よく行っていました。洋服から、生活用品、お土産、映画館、レストランなどほとんど全てが揃っていました。買い物したい時や学校の帰りに寄ることが多かったです。またフォークスという場所があるのですが(ウニペグの観光地でもあると思います)、ここはマントバのお土産が豊富なのに加えて美味しいレストランやカフェなども多く、本当に良く利用していました。勉強できるスペースもあるのでプレゼンの準備をする為に友達と集合する事も多かったです。また立地も良く散歩をしたり、冬はスケートもできたので楽しむ事ができました。

タビオカショップや韓国料理、日本料理のレストランに行った。

学校近くの韓国料理屋には結構行きました。また TIM HORTON という現地で有名なカフェが安くておいしいので一番たくさん行きました。

### 3. 留学前準備について

#### 留学前に取り組んだ準備

##### 英語勉強

耳を慣らすために映画などをよく見た。

体験談を読む。ホストファミリーと連絡を取る。自分の必要なものとホストファミリーへの手土産を用意する。英単語の勉強をする。

留学前は、単語を覚えたり、英会話の動画を見たりして英語に耳慣れするようにしていました。

英単語チェックとリスニングは毎日していた。

単語の暗記、映画や歌を聞いて英語に耳を慣れさせた

##### 留学先国のことを調べる

大学の授業以外で実践的な英語を使う機会は少なかったことから現地の人々との会話がちゃんと成立するのか不安だったため、日常会話で使える英語や空港で使える英語などはよく見直しました。また、緊急時に備えてパスポートやクレジットカードを無くした時の対処法なども確認していました。スーツケースのパッキングなどは一週間前程から初めて十分間に合いましたが、中に入れるものについては一か月ほど前からリストを作り少しずつ購入していました。また、日常生活において使うお金の計画を現地の物価をみながら計画していました。私ならひと月に十万円以内程度と計画していたので事前に決めておくことで無駄遣いを減らす事が出来たと思います。

#### 留学前にしておけばよかったと思う準備

##### 単語を覚える

具体的な目標やスコアを設定する。

英語をたくさん聞く。ホストファミリーにタオルは持って行くべきかなど、気になることを細かく聞く。

ホストファミリーに、家には何があって何を持って行くべきかなどを事前に聞いておくべきでした。バスタオルやドライヤーなど持って行く必要ありませんでした。

##### 発音の勉強、日本のイベントや文化についてより詳しい説明

日本についてもっと知っておくこと、世界情勢について知っておくこと

日本の事や日本周辺の国々の事をもっと勉強しておけば良かったと思います。現地の人々や様々な国出身の人々と話す際に「日本ではどう?」と聞かれる事は勿論多いですが、それに加えて「韓国や北朝鮮は?」「中国では?」と聞かれる事も多々ありました。その時に私は他国の事は勿論、日本の事でさえもよく知らず答えられなくてインターネットで調べる事があり恥ずかしく感じました。海外の人々は例えば大学生であっても自分の国についてよく知っていたり国が行っている政策などについて自分の意見を持っている人が多いという印象でした。私の中で自分の国についてよく知らない事や関心が無い事は恥ずかしいという思いが強くなりました。

中学レベルの英語が話せれば日常会話は特に問題ないと思うが、そもそもネイティブの人と話しなれていなかったため、機会があればできるだけネイティブの人と話しなれておくことと最初から話しやすいと思う。

もっと話す準備をしていたらよかったなと思い、オンライン英会話をしておけばよかったです。

#### 日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

防寒具、味噌汁、作る系のお菓子(子どもがいたため)

日本らしいお箸や日本らしい模様に入った布。

マフラーや帽子、ブーツなどの防寒具、出かける際の小さなカバン、水筒、ホストファミリーにはクリアファイルやボールペン、日本らしいものが喜ばれる。

喜ばれたものーハイチュウ、洋菓子

お菓子、お茶、スリッパ

日本のお菓子、日本の化粧水など(無印)

お土産、日本食、フォーマルな服

食文化の違いはとても大きなものでした。どれだけ楽しい経験ができていた時も日本食はとても恋しかったです。よって日本食は必ず持っていった方がよいと思います。無印用品などで温めるだけのレトルト食品や薄めのご飯のパックなどはとても活用しました。またドライフードのお味噌汁も持っていったとても良かったです。また歯磨き粉や女性であれば生理用品は日本から持っていった方がよいと思います。お土産として喜ばれたものは日本のお菓子です。お土産はそんなに高価なものではなく、お菓子や木のお箸などお手頃かつ日本っぽいものが喜ばれる印象でした。

折り紙、お菓子、爪切り、ヘアケア、スキンケア

日本っぽい絵柄のタオルは喜ばれました。スリッパはあって良かったです。

#### 日本から持っていく必要のなかったもの

洗剤

タオルやスキンケア用品や身の回りのものは基本的に揃るのでわざわざ持ってくる必要は無い。

タオル、洗剤

バスタオル、ドライヤー、ハンガー

折り畳み傘(雨が降らなかった)、ランチボックスや水筒

カプセルタイプの洗濯用洗剤を持っていたのですが各家庭の洗濯機のタイプにより、使える洗剤も違うので必要なかったです。また持っていった良かったものに電卓と書いていたので用意したのですがスマホに電卓機能がついている為必要ないと感じました。

たくさんの服、寒い地域の人はカイロ。特に使う機会がなかった。

変圧器、みそ汁、箸、たくさんの服、電池

#### 日本から持参すればよかったと思ったもの

お菓子(自分用)

絶対にこれだけは自分のものを使いたいと言うもの。

秋に着れる上着、少し綺麗な服、友達に配れる日本のお菓子

インスタント食品

タブレット

のど飴

錠前を持っていけば良かったと思いました。海外のロッカーなどは日本に比べてちゃんとしておらず鍵が壊れていたりするものが多かったです。よって荷物を預けるには不安な事が多々ありました。しかし何人かの友達が錠前を持ってきており借りることができ本当に助かったので海外に行く際は持つ



ていった方が良いと思います。また薬に関して私は常備薬と鎮痛剤のみを持参したのですが慣れない環境で暮らす為あらゆる体調不良を経験しました。よって可能な限り様々な効能の薬を持参すると良いと思います。(解熱剤、風邪止め、咳止めなど)

日本っぽいものをもう少し多めに持っていけばよかった。メッセージを書く手紙セットは友達の誕生日やお別れの時に役に立つし、日本っぽいものだと喜ばれる。

充電のケーブルはよくこわれたので何個か持って行った方がいいです。あとのどがあすぐ乾燥したのでのど飴は持って行った方がいいです。

#### 4. 留学費用について

##### お金をどのように準備しましたか。

プリペイドカード(cash passport)、現金

クレジットカード。

クレジットカードとデビットカード合わせて3枚と、日本で両替した現金250ドルほど

行く前に3万円ほどカナダの現金を準備しました。現地ではほぼカードを使っていました。

クレジットカードに自分が使う額を入れた。

プリペイドカード1枚、クレジットカード1枚、現金

クレジットカード、プリペイドカード、現金

現金に関しては日本の銀行で事前に300ドル換金して行きました。また日本円でも3万円持参しました。それに加えてキャッシュパスポートを作成し持参したのと、以前より持っていたクレジットカードを持って行きました。友達がアメリカンエクスプレスのクレジットカードを持っていたのですが、カナダではアメックスが使えないお店も割とあったのでクレジットカードはビザがマスターをお勧めします。

現金は友達と食事代を分割する際、大人数で料金を割る際、5ドル以下のものを書きときは現金、それ以外はすべてカード払い

クレジットを2枚くらい持って行ったのとデビット1枚、現金は2万くらい持って行きました。

##### 現地で支払った住居費と食費を教えてください。

カード(30万円)、現金(5万円)

3,000,000円

クレジットカード上限50万、現金は25000円ほど用意した。基本的にどこでもカードが使えるし割り勘もしてもらえるが、そうでない時は現金を使う。私は想像より現金を使う場面が多かったため、必要な時にATMから引き出すこともあったが、手数料がかかるためもう少し多めに現金を持って行った方がいいと思う。

クレジットカード50万、現金3万

クレジットカード上限30万(旅費やスーツケースを含む)、現金2万円

現金3万円、クレジットカード上限10万円

クレジットカード上限30万円、現金2万円、プリペイドカードその都度入金してもらう

クレジットカードの上限は月30万円です。現金は先程述べたように3万円を持参しました。

特に定められていなかったが、使用額は30万ほど。円安、物価が日本と比べて高かった。現金は3万、向こうで現金を下ろせるようにしておく便利。

クレジット上限100万、現金2万

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

テキスト代:4,000 円、通学費(定期代):30,000 円

私の場合テキストを買う必要はなかったが、買わなければならないクラスもあった。通学日は最初に一学期間使用できるバスカードを 35000 円で購入する。高か感じるが、これ一つでいつでもどこでも行くことができる。

テキスト代 3,500 円、通学費 3 万円(1 学期間の定期)

テキスト代7000 円、通学費 3 万円

通学費は、1 学期間で 1 万 3 千円、テキスト代は 3 冊で、15000 円以下

テキスト代なし、通学日1セミスター定期3万

テキストに関しては全てオンラインで配布だったのでかかりませんでした。通学日は通学初日に定期券のようなものを購入し、それが33000円ほどでした。

テキストは買わなかった。通学費は、1 学期間乗り放題のバスパスが約3万ほど。

バス代を留学期間分で初めに乗り放題のカードを買い、3 万くらいしました

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

30 万円

800,000 円

その他スポーツ観戦やショッピング、何かを体験したりするのに 1 ヶ月 3 万円ほど使っていたと思う。旅行に行った際にはこれに追加してもだとたくさんかかった。お土産なども全部で 2 万ほどしたと思う。物価が基本的に高く円安であることもあり、何をしてもたくさんの費用がかかった。

お土産代に 2 万円程、冬用のブーツに 7,000 程度

旅行費用7万円、買い物(お土産含む)7 万円、外食代 3 万円、その他 3 万円

おそらく 10 万円

トロント旅行(3泊4日)10万円、カフェ、外食月2~3万、交際費月2~3万、お土産 3 万、アウターやブーツ等衣服 2 万

中休みにいった旅行は全部で10万円以下でした。詳細はあまり覚えていませんが留学に行っていた期間で使った総額は外食費や旅行費、お土産代など全て含んで40万円を少し超えるほどであったと思います。

すべて含めて30万ほど。

食費 15 万くらい、旅行 20 万弱、服 3 万、お土産 5 万

## 5. 学習面について

### 語学力・コミュニケーション能力の自己分析

その日の出来事をマザーに伝えたいと思うようになってコミュニケーションが増えた。

自分が言いたい事は基本的に英語でしゃべれるようになったし一緒に生活できる位のリスニングのスキルと話すスキルがついた。

リスニングの面で大きな改善を感じ、英語のコンテンツなどある程度理解できるほどにはなった。スピーキングも最初は自信のなさから緊張や不安が大きかったが、慣れていくうちに積極的に発言することが大切だと気づき、たくさん上達させることができた。英語を話すことに対する自信をつけることができたし、英語でコミュニケーションをとることが楽しいと思えた。まだまだ足りない点は多いが、これからもより英語学修に力を入れて改善させていきたいと感じるきっかけになった。

初めの頃は、自己紹介ですら自信を持ってすることができませんでした。途中からは英語を話すことが楽しく、ルームメイトとも英語で恋バナをしていました。ルームメイトは日本人でしたが、英語で話そうと決め、最後までその決心を貫きました。そのおかげで、英語力が向上したと思われます。また、ホストサンと話すことを恐れていましたが、仲が深まるにつれて子供の英語も聞き取れるようになり、楽しく遊べるようになりました。

日本人は優しいため、くだらない会話をしても相手が話を広げてくれる場合が多いが、留学先ではそうではなかったため、どうすれば会話を続けられることができるかしっかりと向き合うことができた。積極的に自分から質問し、「そうなんだ」で終わることなく、「じゃあ〇〇は？」といったように受け身ならず、積極的に質問するようになった。留学前後では、スピーキングやリスニングは大幅に変わっていない。

語学力は確実に上がった、特に、スピーキング力とリスニング力だ、スピーキング力は、同時に自分の英語に対する自信を持ってたおかげでより向上したと思う。

日本にいるときに英語を使うときは正しい英語を話しているか、この表現でいいのかなど話す前に考えてしまっ、話すのをためらったり、間違いを恐れていたけれど、この留学の経験を通して、自分が話さなければ会話にならない状況なのでとりあえず間違っても話そうという意識が高まって英語に対するミスする恐怖心が少なくなり話す力とコミュニケーション能力は留学に行く前に比べると伸びたと思う。

スピーキングに関しては発音や速さなどそこまで成長したかは自分ではあまり分かりません。しかし英語を喋る事にプレッシャーを感じることは全くなりませんでした。また、言いたい単語が思いつかなくても何とかして伝えようと他の言い回しを瞬時に考えられるようになったと思います。ホストファミリーと日常生活の会話はほとんど問題なくできていました。対してリスニング力はとても身に付いたのではないかと自分でも感じます。初めはお店の人が言っている事や現地の人同士の会話が理解できない事も多かったのですが帰るころにはある程度問題なく理解できるようになっていて驚きました。英語環境の中に身を置く事のメリットをとっても感じました。

私はもともと話すことが好きだったため、英語力の伸びも比較的早かったと思う。また、正しい英語が話せなくても、カナダ人の友達がたくさんできた。

スピーキングは前までうまく話せないからとしゃべることに勇気がなかったけど今はしゃべることに抵抗はなくなったと思います。ですがまだ話したいことをすべて話せるわけではないすぐに言葉が出てこないこともあるなと思います。

### 留学前の目標とその達成度

英語を積極的に使い話せるようになる→日常会話ができる程度。英語は多くの人が使う分、人それぞれアクセントや訛りがあるので英語が上手い人=英語をペラペラに話せるだけではなく、相手に通じる正しくきれいな発音をすることも必要だと思った。

基本的には大きな目標は決めていませんでしたがある程度話せるようになるという目標は達成できた。

まず TOEIC や TOEFL で高い点数を取ることが目標であった。帰国後まだ受験していないが、この経験がボキャブラリーの面で特に役立つだろうと考えている。また、さまざまな文化を持つ人々と英語でコミュニケーションを取ることを目標としていた。日本人が多かったものの、ネイティブや他の国からの留学生も多々たくさん話すことで、異文化への興味や理解につながった。それから、自分将来について深く考え、留学経験をよく活かすことも目標の一つであった。この留学経験は私にとって自分の進路について真剣に考える大きなきっかけとなり、これから何をしたいかを明確にしてくれた。

留学前に、自分の消極的な性格を克服し、自分に自信をつけることを目標としていました。結果として、現地の人に積極的に話しかけ、英語で話したり、遊びに出かけたり出来たので、大変満足しています。また、徐々に英語に慣れていき、英語を話すことが楽しくなっている自分を見ると、自信があるからこそ英語を話そうとしていることに気づき、自分に自信がついたと確信しました。

海外の友達とホストファミリーと仲良くなるのが目標で、実際に日本人以外の友達を作ることができ、ホストファミリーともたくさんの思い出を作ることができた。しかし、言語の壁を感じる時が多かったため、相手を深く知るには、もっと英語力が必要だと感じた。

文化の違いを教え合うことは、確実に達成できた、私は、メキシコ人の友達とほとんど一緒に居たためメキシコの文化について知ることができた

日本では出会うことのできない人達と英語を使ってたくさん交流して友達を作るという目標をたてて、毎日カフェテリアに行き自分から話しかけに行き友達を作ってカフェテリアで話すようになったり週末に遊びに行ったりなど外国人の友達とコミュニケーションをとれるようになった。

留学前はある程度スラスラ喋られるようになるのでは、と思いスピーキング力の向上を目標としていました。しかし自分の予想は外れリスニング力の方がより向上しました。自分の中での予想や目標とは違う形になりましたが大きな結果を得られたと思っています。また、日本にいたころは英語を話すことに自信がなかったのに加え英語を母語とする人が周りに少なかった為、英語を話す前に緊張したり恥ずかしくなっている自分がいました。よって英語を話すことが普通と思えるようになりたいと目標を立てました。その目標は完全に達成したと思います。

自分にそんなに期待していなかったのもあるが、予想以上だった。特に考えなくても友達と英語で会話ができる。

留学前は外国の友達をたくさん作ること、自分から積極的に話すことを目標としていました。友達を作るとはたくさんまでは言えないかなと思います。いろんな外国人の子に話しかけたりはしていたけどいつも一緒にいる子は同じだったので友達がいっぱい増えたとは言えないかなと思います。積極的に話すことは結構できていたかなと思います。街中でも知らない人などに話しかけたりしていたので良かったかなと思います。

#### 留学を通しての成長ポイント

自分で考えて動く力。

恐れずに英語を話して 知らない人に話しかける力がついた。

今まで家族とずっと一緒に暮らしてきた私にとって、1人で外国で3ヶ月半生活することは初めての経験だった。何か問題がある時自分自身の力で解決しなければならないことが私を精神的に自立させ、成長させてくれたと感じている。また相手の気持ちを考え配慮し、協力して助け合うための力をより育んだ。

暇な時に色々な人に声をかけて英語を話す努力をしていたので、行動力やコミュニケーション能力が身についたと思います。ルームメイトとは、意見が食い違う時もありましたが、自分の意見を持ちつつ、相手の意見を尊重する大切さも知りました。そこで、協働力も身につきました。

日本にいたときより、留学期間で自分の今と将来に向き合うことができ、人に頼るのではなく、今できる最大限のことができるようになった。受け身にならず、しんどい時は誰かに話を聞いてもらい、学校がない時は友達やホストファミリーと過ごすなど、一人で考えすぎず、他の人と過ごすことの大切さを学んだ。

積極性、失敗を恐れず言動する力

自分の意見をしっかり持って伝えることができるようになった。この留学を通して日本人がいかに控えめであるかを感じた。人からどう思われているかなど周りの目を気にしたり人と比べて自信が無かったけれど自分のできないことを認めわからないことはわからないと言ったり自分の意見を自ら言えるようになったと思う。

勉強の面以外での大きな変化は自分に自信がついたことです。留学に行く前は他人にどう思われているか、自分の行動に他人がどう思うかなどを気にしてばかりいました。しかし海外の人々は他人にフォーカスするのではなく、もっと自分にフォーカスして生きているように感じました。また色々な人がいて当たり前という中で生きています。よって他人と同じである必要はなく、自分は自分で良いと思えるようになったのが大きな変化であり成長です。また周りにいる家族や友達の有難みを痛感しました。どれだけ自分が支えられて生きているか今までの中で一番強く知ることが出来ました。

自分で解決する力と、勇気をもって yes, no を言えるようになった。自分の意見を明確にし、かつ人に伝えられるようになった。

私は一番自分自身がすごく強くなれたかなと思います。留学に行く前は自信がなかったり、1人で色々することに恐怖があったりしていたけどそれが完全になくなったかなと思います。そのため、自分に勇気と自信がついたかなと感じます。また自立心がついたかなと思います。自分でやらないとどうにもならないことや日本では友達にきけていたことが留学ではそうはいかなかったりと、困難がたくさんあったので自己解決力が上がったかなと思います。

## 留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

マザーに語学力向上したねと言われたこととお店の人に英語上手だねと言われて自信がついた。

留学前はしっかりと単語の意味などを調べていませんでした。留学中はできるだけ吸収できるように多くの会話的なものを学ぶようにしようとしました。留学後は何に対しても積極的に調べる癖ができました。

留学前から今にかけて語学学習に対するモチベーションは上がっている。留学を通して、英語に対する興味がより強まりもっと学びたい、活かしたいと感じるようになったし、英語でコミュニケーションを取ることが楽しいと感じた。

留学前は緊張と不安で、話せるようになるために勉強をしていましたが、留学中は話せることを前提にコミュニケーションをとるので、単語などの勉強より、自分の意見を持つことが大事であると思いました。海外のドラマやコメディを沢山みながら、現地の人が使う表現などを学ぶ方がためになると感じました。

留学前は海外の友達とチャットや電話ができていたため、そこまでリスニングとスピーキングに不安はなかったが、留学中は自分の英語力に絶望した。言いたいことが深く言えず、ネイティブ動詞の会話についていけず、愛想笑いで終わってしまうなど、1対1の英語とグループ(自分以外ネイティブ)の中での会話は全く違い、悔しかった半面モチベーションは上がった。この悔しさから、留学後もっと単語力とリスニング力を伸ばそうというモチベーションが上がった。

語学学習に対するモチベーションは上がる一方だった

留学前は洋画や洋楽の影響を受けて英語を使って会話ができるようになりたい、と憧れから思っていました。そして単語と文法の見直しばかり勉強していました。留学中は自分の英語力が十分じゃない為に上手く伝えられないもどかしさから単語の勉強に加えて実際に使える言い回し、スラング、イディオム、発音の仕方などにフォーカスしていました。留学を通して英語を身につけることで自分の可能性や選択肢、そして付き合う人々の幅が広がるという事をとても強く感じました。また読む、書く、聞く、話す、といったどの技能もまんべんなく必要であると思うようになったので今は全ての技能を改めて勉強しなおして発展させたいという思いが強いです。

留学前は不安もあり、あまりモチベーションがなかったが、留学から1月経って、ある程度自分の環境を整え、ホームシックも治ったぐらいからはとてもモチベーションが高かった。英語を学ぶこと、からトン木立と話すために英語力を鍛えることにフォーカスが変わったことが大きい。

留学前は就活もあったのでTOEICを頑張らないとというモチベーションはあった。留学中は周りのレベルが高くてどうにかしないと、もっとがんばろうとおもモチベーションは高かったです。留学後は日本に帰ってから外で外国人の人をよく見かけるようになってもっと英語を話したい、話せるようになりたいと思うようになってもっと頑張ろうという気持ちです。

## 留学中 100%力を振り絞った瞬間

午前授業の最後の評価であるグループプレゼンテーションで新しいビジネスプロジェクトについて発表した時。最後だったためより頑張ろうと思っし、1からすべて自分たちで考えて作り出したものを英語を通して発表することはとても楽しく、自分自身の英語力の成長も感じる事ができた。

ディベートの課題で、即座に自分の意見を伝え、納得いくような反論を言う時に、最大の力を発揮しました。

ホストファミリーが話している会話がききとれず、もっとたくさん話したいのにも関わらず、ネイティブ同士が話している時は聞き取りが難しく、いつも頭が真っ白になり黙ってしまうことが多かったため、ホストファミリー全員の前で、泣きながら自分のこの悩みを話した事。

私の午前のクラスは、週に1回か2回はプレゼンテーションをしなければいけなかった、最後のプレゼンテーションでは、自分でも驚くほどスムーズにすることができたときに振り絞ったと感じた。

家族でのイベントや人が多く集まる時にネイティブの人ばかりで緊張したし自分の英語力で聞き取れなかったり言いたいことが思うように言えなかったりして、がっかりすることが多かったけれどそういう場面で諦めずにコミュニケーションをとろうと努力できたこと。

トロント旅行では100%の力を振り絞りました。予約や計画の段階は全てインターネットで済んだので問題ありませんでした。現地到着後、言葉も文化も違う初めての場所で予想外の問題が本当に数えきれないほど起こりました。例えばナイアガラの滝のクルーズに参加する予定でしたが付近には荷物を預けるロッカーが無く、重いスーツケースを抱えながら二時間以上探し回り、最終的に間貸しという形でお金を払って荷物を預ける事ができる理

容店をネットで見つけて予約しました。初めての土地で起こる問題は全て予想外で友達と協力しながら全力で乗り越えました。しかし海外で数々の問題を乗り越えたという事実は私に自信をくれ、強くしてくれました。

カナダ人の友達を作ることがとても難しかったが、勇気をもって話しかけたりしたこと。この努力をしたからこそ、私の留学は素晴らしいものになった。

留学の初期の方にもう全然外国の友達が作れなくてどうやって作ったらいいかもわからずすごく悩んでしんどかった時期がありました。少し外国の子と話すとかはあったけど仲いい友達みたいな子を作れず困っていました。でも自分を変えたいと思ってお昼の時間などに一緒に座っていい?などたくさんの人に聞いて友達作りを頑張っていました。そのおかげですごく仲いい外国人の子が何人かできてよかったなと思います。

#### 留学先大学の良かった点

授業で話す機会が多かったこと

ダウンタウンに位置している。素晴らしい先生方と学生たち。大人数すぎない。アットホームな雰囲気。

様々なアクティビティがあり、現地の人と交流する機会が多かったです。大学の周りにレストランやカフェがたくさんあり、放課後も楽しく過ごせました。

留学先大学では、生徒同士で意見をシェアすることや、プレゼンテーションやディスカッションが多かったため、アウトプットが多く、授業内容を学ぶだけでなく、活用する場面が多いと感じた。

毎週大学主催のイベントがありできるだけ多くその地域を知ることができるアクティビティやネイティブと話したり英語を上達させるための機会をたくさん与えてくれたこと、オフィスを訪ねたりメールで困ったことを相談すると丁寧に対応してくれたこと。

午後のクラスは割と少人数制だったので話しやすかったし良かったなと思います。大学に事務が併設されていたり、大学でスポーツの試合が無料でたくさん見れたことが良かったなと思います。